2-6.六ツ美地区の稲作儀礼にみる歴史的風致

(1)はじめに

六ツ美地区は本市の南西端に位置し、原始より矢作川の氾濫原にあたり、肥沃な土地に人々の生産基盤が依拠してきた。人々の住居は洪水により形成された自然堤防上に立地し、生産基盤は沖積低地を利用した水田や畑であり、平野部の田園風景の中に集落が点在する地域である。古くから農業が盛んな地区であり、この地域特有の稲作儀礼をみることができる。

(2)用水開発

六ツ美地区は矢作川の氾濫原にあたり、近世以降も頻繁に氾濫に見舞われ、人々の暮らしは古来、矢作川の氾濫との戦いであった。矢作川の氾濫は洪水被害をもたらした一方で、上流部から養分を含む堆積物を運び込み、これが六ツ美地区の肥沃な土地を形成した。とはいえ、耕地への導水は課題でもあった。

①占部用水

占部用水は慶長 8 年(1603)に竣工し、矢作川流域で初めて開削された用水とされている。その後も改修されながら現在まで使用され、六ツ美地区 20 町地内を灌漑する用水である。現在の用水の大部分は埋管され、直接見ることはできない。慶長期(1596～1615)の占部用水開削の功労者である野本新十郎と渡辺弥蔵は占部川神社に用水の守護神として祀られ、神社では毎年 6 月 16 日に「水恩忌」として祭りがおこなわれている。また、明治 18 年(1885)には二人の偉業を後世に伝えるため、「占部用水の碑」が思案橋のたもとに建てられた(昭和 27 年(1952)に占部川神社に移転)。

②高橋用水

高橋用水は明治時代初期に着手し、昭和 33 年(1958)に完成した。高橋町地内を水源とし、六ツ美地区 13 町内を経て西尾市にいたる。高橋用水は大正 4 年(1915)の大嘗祭悠紀斎田に用水を供給した。

矢作川
上和田町
赤渋町
中之郷町
法性寺町
宮地町
東海道本線
おかざき
牧御堂町
土井町
井内町
高橋町
上青野町
合歓木町
野畑町
在家町
下和田町
坂左右町
下青野町
占部用水
(現在)
福桶町
上三ツ木町
国正町
高橋用水
中村町
下三ツ木町
安藤町
定国町
占部用水
(江戸時代初期)
三軒屋町
正名町
中島東町
悠紀斎田
中島中町
中島西町
東海道新幹線
中島町
1603 年段階の占部用水の受益範囲
現在の占部用水の受益範囲
現在の高橋用水の受益範囲

図2-6-1　用水配置図

(3)耕地整理

六ツ美地区で最初に耕地整理に着手したのは中島地区で、明治 33 年(1900)に耕地整理法が施行された直後に耕地整理事業に着手し、明治 37 年(1904)に完成した。中島地区の耕地整理は全国的にみても先駆的なもので、愛知県内では最初の耕地整理事業であった。この後、明治 39 年(1906)から上合歓木(ねむのき)、下合歓木、高橋、下青野、福桶、安藤、高落等の地区で連合整理が行われ、明治 42 年(1909)に竣工した。大正元年(1912)からは高橋、赤渋、中之郷の連合整理が行われ、大正 4 年(1915)に竣工した。耕地整理や先にあげた用水整備により、六ツ美地区の収穫高は向上した。

また耕地整理により湿田から乾田となったことで二毛作が可能となり、昭和初期には菜種栽培で全国 1 位の生産量を誇るまでにいたった。当時、羽角(はすみ)山から見渡すと六ツ美地区は黄色い絨毯(じゅうたん)(菜の花)で一面が埋め尽くされていたといわれるほど菜種栽培が盛んに行われていた。当時を記憶する人々には菜種の花が咲く時には養蜂家が蜜蜂を運んできて「はちみつ」の採集をするなど、はちみつの香りただよう美しい豊かな農村であったと懐古される。

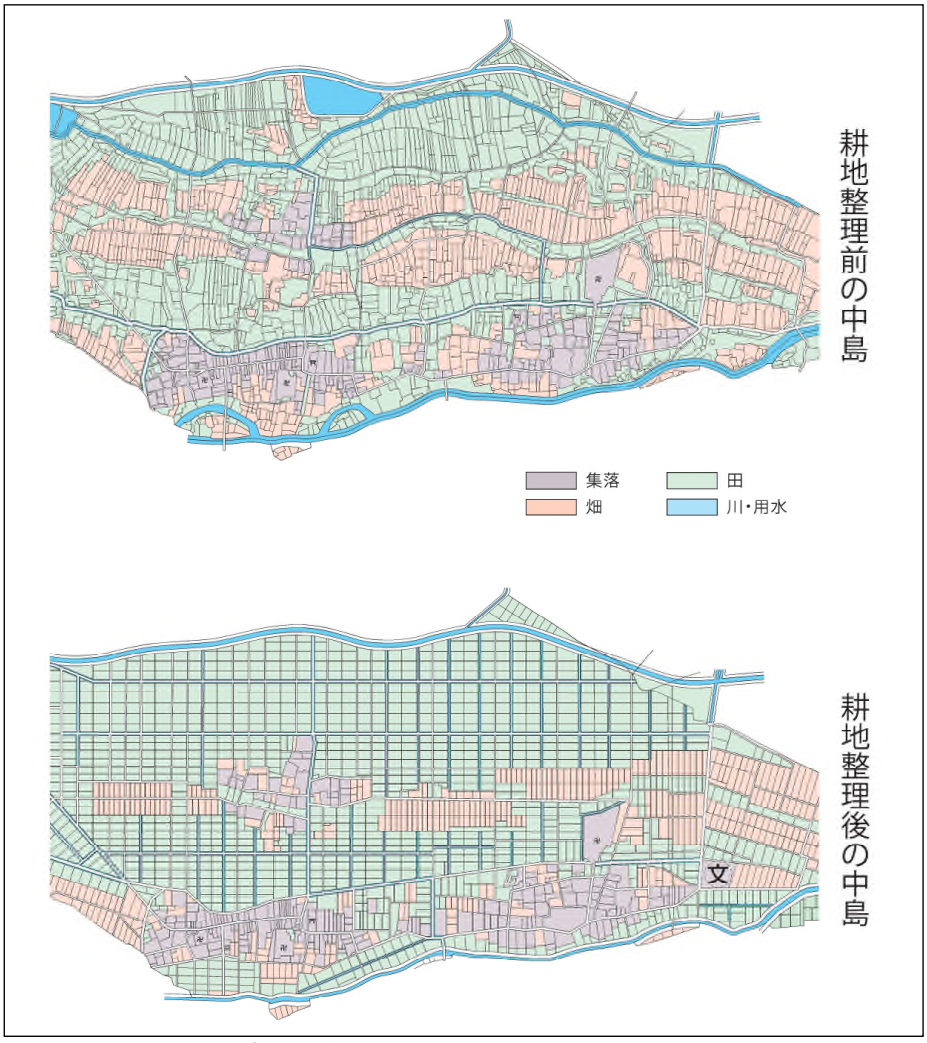

図2-6-2　中島地区耕地整理前後の状況